

【目次】

1.アーカイブ No.41

連載「日本労働会館物語」第38回

〈なぜ今、ユニテリアン、惟一館(友愛会館)なのか〉

2. 05/12(火)～13(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・リーダー研修(東京) 28 名

3. 05/15(金) 団体見学・UA ゼンセン製造部門・東洋紡労働組合・友愛労働歴史館の見学・講演会 19 名

4. 05/17(日) 団体見学・JAM 神奈川・単組書記長会議 32 名

5. 05/27(水)～28(木) 出張講演・ユーアイ・KAKKIN 四国ブロック会議(香川) 36 名

6. 05/29(金) 団体見学・三菱自動車ふそう労働組合連合会〈安部対応〉7 名

7. 05/29(金) 団体見学・JAM 四国愛媛地協 14 名〈安部対応〉

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1. アーカイブ No.41

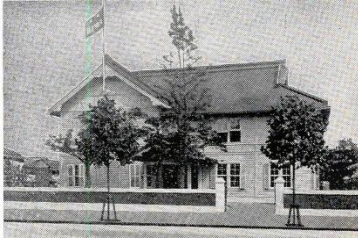
連載「日本労働会館物語」第38回 2012.10.22 発行の第 55 号に掲載

〈なぜ今、ユニテリアン、惟一館(友愛会館)なのか〉

本連載「日本労働会館物語」は、友愛労働歴史館の開設準備などによりお休みしていましたが、本号から再開いたします。前回はメールレポート「友愛労働歴史館たより」第 49 号(5 月 2 日付)に、「なぜ期成会はつぶされ、友愛会は生き残ったか！」と題して掲載いたしました。

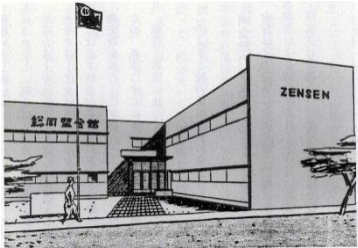


今回以降はユニテリアン教会・惟一館で誕生した友愛会と、その拠点となった惟一館(現友愛会館)について記述いたしますが、ここで今一度、ユニテリアンと惟一館について整理しておきます。



惟一館は米国ユニテリアン協会が明治 27(1894)年 3 月、自由基督教の活動拠点として建設したもので、その後、日本労働会館、総同盟・全織会館、友愛会館・三田会館と変遷(写真参照)し、2012 年 1 月に新友愛会館として竣工しています。

現在、ユニテリアンや惟一館(昭和 20 年 5 月、山の手大空襲で焼失)が注目される理由は、次の通りです。



①ユニテリアンは合理的、科学的な考えに立脚し、また宗派性を持たず、他宗教との共存をめざす寛容で開かれた人たちであること、②それ故、福澤諭吉らがユニテリアンに共感し、彼らを日本に招聘したこと、③明治 31(1898)年、ユニテリアンの安部磯雄らにより社会主義研究会(後の社会民主党)が結成されたことにより惟一館は「日本社会主義運動発祥の地」とされたこと、④大正元(1912)年、ユニテリアンの鈴木文治らにより友愛会(後の連合)が結成されたことにより惟一館は「日本労働運動発祥之地」とされたこと、⑤惟一館の設計者は J・コンドルであり、最近の東京駅復元により彼とその教え子(東京駅を設計した辰野金吾ら)が脚光を浴びていることなどによります。



コンドルの建築物としてニコライ堂、岩崎邸(写真)、古河邸、島津邸、三井倶楽部などが現存し、また惟一館と同じ明治 27 年には神田青年館と三菱一号館が建設されています。コンドルの弟子には辰野金吾の他、慶応義塾図書館などを設計した曾禰達蔵(曾根益民社党初代書記長の父)らがいます。



2. 05/12(火)～13(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・リーダー研修会(東京) 28 名

UA ゼンセン・流通部門の流通リーダー研修会(東京会場)の研修生と教育委員会メンバーの皆さん 28 名が、講義「流通労働運動の歴史と労働組合が果たすべき役割・今後の課題」のテーマで受講した。まずは、友愛会に始まり、戦前・戦後の労働組合の流れを説明。友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」「社会体制・社会主義と自由主義」「経済体制・共産主義と資本主義」などを学習しました。すべては、友愛会が組織拡大していく途上、多くを学び、失敗したことが現代の教えとなっている。その流れから組合の存在意義、組織のあり方、役割と責任など組合民主主義を身に付けていく。

3. 05/15(金) 団体見学・UA ゼンセン製造部門・東洋紡労働組合・友愛労働歴史館の見学・講演会 19 名

UA ゼンセン・製造部門・東洋紡労働組合・本部役員・各支部支部長など現役のリーダーとして来館。東洋紡労働組合結成 80 周年を迎えるにあたり、現役リーダーが歴史に学ぶ機会として真剣に受講されました。恒例により来館。講義「日本労働運動の 100 年余り」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を 80 分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」「社会体制・社会主義と自由主義」「経済体制・共産主義と資本主義」などを学習しました。まとめで鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。受講後も熱心に見学され、多くの質問をされていました。

4. 05/17(日) 団体見学・JAM 神奈川・単組書記長会議 32 名

JAM 神奈川の単組書記長会議の皆さん 32 名が、講義「日本労働運動の 100 年余り」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を 70 分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」「社会体制・社会主義と自由主義」「経済体制・共産主義と資本主義」などを学習しました。まとめで鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。特に日本初である労働協約締結関連の東京製綱労働組合(100 年前)を熱心に受講し、細かく見学しました。

5. 05/27(水)～28(木) 出張講演・ユーアイ・KAKKIN 四国ブロック会議(香川) 36 名

ユーアイ・KAKKIN 四国ブロック会議の構成単産のメンバー、市町村議員、政権フォーラム常務理事、KAKKIN 専務理事など総員 36 名が参加。講義「日本労働運動の 100 年余り」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を 90 分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」「社会体制・社会主義と自由主義」、「経済体制・共産主義と資本主義」などを学習しました。まとめで鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。受講後は、質疑応答を経て、懇親会。特に日本初である労働協約締結関連の東京製綱労働組合の資料(100 年前)、川崎・三菱争議などを熱心に質疑がありました。皆さんとつても熱心に議論し、友愛会の歴史継承を心に刻んでいただきました。

6. 05/29(金) 団体見学・三菱自動車ふそう労連<安部対応> 7名

5月29日、三菱自動車ふそう労連のメンバーが来館。一行はDVD「友愛会から連合へ～日本労働運動の100年」を視聴、常設展示の資料を見学して社会運動の歴史を学んだ後に、本会議が開かれている国会議事堂へと移動しました。今回は滞在時間が限られていたこともあり、また見学の機会をもちたいとの感想が寄せられました。参加者は7人でした。

7. 05/29(金) 団体見学・JAM 四国えひめ地区協議会 14名<安部対応>

5月29日、JAM四国えひめ地協から14人が来館し、常設展示を見学しました。一行はこの日の午前中には国会審議を傍聴しており、展示室の社会民衆党や民社党の資料などにも興味を示す人がありました。「自分の組合の歴史は加入時に説明されるが、労働組合がどうやってできてきたのかをここで知ることができた」との感想も聞かれました。

-----「人間の尊厳、進歩と発達のために」-----

発行：友愛労働歴史館

責任者：藤吉大輔

〒105-0014 港区芝2-20-12

友愛会館 8F

TEL03-3453-5386

Eメール yuirodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuirodorekishikan.com>

-----惟一館から131年、友愛から113年-----